

第4章 ふれあい囲碁を実践してみる

1. 基本的な流れと考え方

①まずは身近な相手を誘って

初めから“コミュニケーション・プログラム”を実践するというより、だれにでもできる簡単なゲームとして実践してみましよう。ふれあい囲碁は、一度参加してみれば、簡単にできることが実感できますが、まだ一度も実践を体験していない方は、まず、身近な相手を誘って1対1のゲームをしてみると良いでしょう。

②道具を用意する

家に囲碁の道具があれば、それを使っても良いし、自作しても構いません。初めて自作する場合は、切り抜きやすい画用紙を使いましょう。

まず碁石ですが、2色の画用紙を用意し、それぞれにコンパスで直径2～3cmの円を描きます。数は1色につき30個あれば十分です。それを切り抜きます。碁盤は、白の画用紙に、碁石の直径と同じ幅で、タテ、ヨコに9本ずつ線を引きます。これで準備は完了です。

(*線の数に決まりはありません)

③ルールを説明する

ふれあい囲碁のゲームには、たった一つだけルールがあります。「相手の逃げ道をなくせば取れる」という石取りのルールです。ルール説明の図(P5)にあるような形をつくり、実際に石を取る動作を見せて説明します。

(*ルールを一つに限定しているのは、コミュニケーション・プログラムを成立させるための最も重要なポイントです。競技囲碁にはいろいろなルールがありますが、それと混同しないよう十分にご注意ください)

④先に3個取ったら勝ち

早速ゲームを始めましょう。ジャンケンで勝ったほうが先攻後攻、そして碁石の色を選びます。対戦を始めるとき、双方が「お願いします」とあいさつをして、好きなところに碁石を順番に置いていきましょう。先に相手の碁石を3個取れば勝ちです。

(先に1個取れば勝ちでもOKです。また「お願いします」のあいさつは、“礼に始まり礼に終わる”という先人が培ってきた文化として、ふれあい囲碁では、とても大切にしています。ちなみに、ゲームが終わったら、「ありがとうございました」とあいさつをして終了します)

⑤補足ルールを話し合う

さて、ここからが「ふれあい囲碁」の重要なポイントです。ゲームを始める前、あるいは途中でさまざまな疑問点が出てくるはずです。「あれっ?ここに碁石を置いて

も良いのかな？」と迷う形もよく出てきます。

そのときは、相手と解決策を話し合しましょう。つまり、自分たちでゲームのルールを決めていくのです。「えっ？それでゲームは成立するの？」と驚かれたでしょうか。どうぞご心配なく。どのようなルールを自作しても、必ずゲームは成立します。

もうお気づきかもしれませんね。ルールを話し合うことが、実は理想的なコミュニケーションを実現しているのです。

というのは、ルールをどのように決めるかを話し合うときに、「教師⇄生徒」あるいは「親⇄子」、「上司⇄部下」といった枠が自然に取り払われ、対等に向き合うことができるからです。コミュニケーション・プログラムとしての工夫や技術はほかにもありますが、「ルールを話し合う」だけでも、“居心地の良い距離感”を生み出す効果は十分に実感できることでしょう。

勝ち負けの面白さではなく、相手との“居心地の良い距離感”をぜひ味わってみてください。

2. 関係づくりの工夫

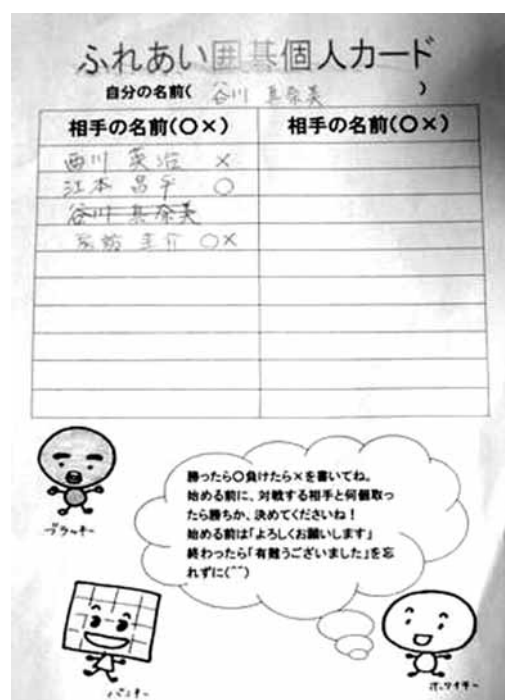
ふれあい囲碁は、参加者同士に“居心地の良い距離感”を生み出すプログラムですが、最終的には、できるだけ多くの人と良好な人間関係を結ぶことを目指しています。ただ、初めから「仲良くしましょう」といった趣旨を前面に出してしまうと、参加者が身構えてしまうかもしれません。

そこで、簡単で楽しそうなゲームに参加しているうちに、ごく自然に人間関係が築けるように進行するのが、このプログラムの特徴です。

ふれあい囲碁の実践では、囲碁の道具のほかに、プログラムの効果を高める小道具を使います。一つは名札です。“居心地の良い距離感”が生まれたら、相手がだれなのか気になります。お互いの名前が分かると、居心地の良さ、安心感が高まります。

また、個人戦をする際、対戦カードを使います。カードには勝敗だけでなく、対戦相手の氏名を記入する欄を作ります。相手の氏名を書くことによって、お互いの印象も強くなります。顔と名前が一致する人間関係を自然に広げていく効果があります。

囲碁の道具についても、全国各地でさまざまな工夫があり、参加者の心を和ませています。（P31）



*カードの形式は自由です

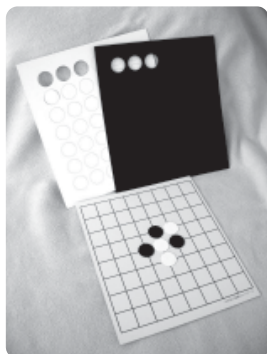
3. ふれあい囲碁の実践区分

ふれあい囲碁は、実にさまざまな場所で活用されています。これまでの実践活動をもとに場所、目的などを整理しました。

区分	おもな目的	実践内容
<教育・保育分野>		
幼稚園・保育園	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士の関係づくり、保育者と子どもの関係づくり 保護者と子どもの関係づくり 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> カリキュラムの中で 保育参観のイベント
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士（同年齢、異年齢）の関係づくり 教職員と子どもの関係づくり 保護者と子どもの関係づくり 保護者と教職員の関係づくり 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦&個人戦（総合的な学習の時間を活用） P T Aの学年活動で 学級懇談会で
中・高校	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士（同年齢、異年齢）の関係づくり 教職員と子どもの関係づくり 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティア体験学習 団体戦&個人戦（総合的な学習の時間を活用）
養護学校・聾学校	<ul style="list-style-type: none"> 子ども同士（同年齢、異年齢）の関係づくり 教職員と子どもの関係づくり 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦&個人戦
<福祉・医療分野>		
高齢者福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士の関係づくり 職員と利用者の関係づくり 脳リハビリ、脳トレーニング 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦（グループ戦、ペア戦）
障害者福祉施設	<ul style="list-style-type: none"> 利用者同士の関係づくり 職員と利用者の関係づくり 地域交流 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦（グループ戦、ペア戦） *障害のある方については、最終的に地域社会での人間関係づくりを目指します *視覚障害のある方も参加できる囲碁セットがあります
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の新しい関係づくり 親子のコミュニケーションの促進 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦&個人戦
<地域づくり>		
自治会組織（老人会、子ども会含む）	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民の関係づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦&個人戦
地域サロン	<ul style="list-style-type: none"> 参加者の関係づくり レクリエーション 	<ul style="list-style-type: none"> 団体戦&個人戦
その他（人材育成）	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーション技術の修得 	<ul style="list-style-type: none"> 進行役の研修（教員、施設職員、地域ボランティアなど対象）

4. 道具あれこれ

ふれあい囲碁には、実践に便利な道具がつくられています。それだけではなく、オリジナルの囲碁セットを作製して活動を盛り上げている地域も全国各地にあります。その一部をご紹介します。



基本セット

ふれあい囲碁の個人戦に使うオリジナルの囲碁セットです。厚紙製で、石をくり抜いて使います。1セットずつチャック式のビニール袋

に入っているの、保管にも便利です。
製作：ふれあい囲碁ネットワーク（事務局 山形県遊佐町）



そっとカバンにしのばせて

布製囲碁セット

ヒモをほどいてみると、中には碁石を入れた袋が……。布地の裏が碁盤になっています。

どこにでも入れて持ち運べるので、女性に大人気です。
製作：盤友引力（東京都新宿区）



絵手紙碁石

紙皿一枚一枚に、丁寧に描き込んだ絵手紙碁石です。ふれあい囲碁の参加者一人ひとりに心をお届けします。

製作：奴留湯 喜久江さん（大分市）



木の碁石!?

碁木（ごもく）

黒檀やブナ材、そして年輪の模様を楽しむために枝を輪切りにしたものと、密度が高く加工し

にくい材質を丹念に碁石に仕立てました。

製作：生活工房こだま（千葉県柏市）



巾着囲碁セット

障害をもつ人たちが、心を込めて一針一針縫っています。碁石も布で出来ています。碁盤の目も手縫いです。



製作：笠松あんじゃない園（福岡県庄内町）



お手玉囲碁セット

碁石をつかみにくい年配者や障害のある方が使いやすいようにと作りました。碁石の一つひとつがお手玉なのです。

製作：伊藤富美さん（千葉県柏市）

*道具に関するお問い合わせは、NPO法人 ふれあい囲碁ネットワーク大分まで（P32）

ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事業 実行委員会委員



実行委員長
谷川 真奈美



副委員長
加納 雅彦



副委員長
村田 喜代志



安部 正大



森下 紀代子



村上 久子



寺嶋 恵理



佐藤 友美



小川 菜奈美



亀井 一元



田嶋 孝至



阿部 康広



安部 恭子



後藤 フミ子



今別府 勝

*ふれあい囲碁を活用した地域づくり推進事業実行委員会は、NPO法人ふれあい囲碁ネットワーク大分会員のほか、地域づくり推進事業（助成事業）の趣旨に賛同した市民有志によって構成されています。



ふれあい囲碁の実践には、特別な知識も経験も必要ありません。
“居心地の良い距離感”とはどのようなものか関心のある方、あるいは、社会に役立つことをしたいけれど自分に得意技がないという方、どうも自分は人間関係が苦手だと思ってしまう方、ふれあい囲碁を試しにしてみてください。

実践者を養成する研修会も実施しています。ほっと安心できる仲間、自分を勇気づけてくれる仲間ができます。どうぞ気軽にお問い合わせください。

ふれあい囲碁を活用した地域づくりガイドブック

2007年3月発行

発行者 NPO法人 ふれあい囲碁ネットワーク大分
代表 谷川 真奈美
事務局(大分市) 電話・Fax 097-594-7788
e-mail : oita@fureaiigo-net.com

編集協力 地域づくり・人づくり推進会議
URL : <http://www.chiiki-hito-kaigi.net/>